

(学校番号035)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【神田小学校】

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 児童間において、前学年や前単元の学習内容の定着や習得状況に差が見られる。 <指導上の課題> 児童一人ひとりの学習状況に合わせた反復・習熟の時間や機会の設定が不十分である。	⇒	・単元の最初や途中で、前学年や前単元の内容を復習する時間や機会を設ける【毎単元の実施】 ・単元の後半に、習った学習内容を活かす時間や機会を設ける【毎単元の実施】 ・児童が自分の学習状況に合わせて「ドリルパーク」等を活用する時間や機会を設ける【毎単元の実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分の考えを表現することに苦手意識がある児童の割合が多い。 <指導上の課題> 教師の指示や発問が多く、児童たちが問題解決に向けて活躍する量が少ない傾向にある。	⇒	・学習活動や過程を明確に示し、個人で取り組む時間を確保して、見通しをもって学習できるようにする【毎単元の実施】 ・指示や発問を減らして、ねらいを達成するための主発問を練った上で授業を実施する【毎時間の実施】 ・友達に話すことや書くことがしなくなる教材開発や活動のバリエーションを豊かにする【毎単元の実施】

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「競技を書く」問題においては無回答率が19.4%と高い。 算数の「除数が10分の1になったときの商の大きさを選ぶ」問題及び「作成途中の見取り図として正しいものを選ぶ」問題において、全国の正答率に比べて4%下回った。「 $540 \div 0.6$ の計算」問題においては、7%下回った。習熟の時間の確保が必要である。
思考・判断・表現	国語の「物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」問題において、無回答率が19.4%と高く、「メモを基にして書く」問題においても無回答率が10.4%と高い。どちらの問題も100文字程度で書く問題だった。文章を読んでまとめる学習と自分の感想をまとめる学習がさらに必要である。算数の「箱の体積を求める式を書く」問題において、無回答率が19.1%と高く、「折れ線グラフから読み取ったことを条件に合わせて言葉と数で記述する」問題において、無回答率が11.8%と高い。式や言葉、数を使って書く時間の確保が必要である。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	・単元の最初や途中で、前学年や前単元の内容を復習する時間や機会を設けている。 ・単元の後半に、習った学習内容を活かす時間や機会を設けることに課題がある。 ・児童が自分の学習状況に合わせて「ドリルパーク」等を活用する時間や機会を設けている。	変更なし
思考・判断・表現	B	・学習活動や過程を明確に示し、個人で取り組む時間を確保して、見通しをもって学習できるようにしている。 ・指示や発問を減らして、ねらいを達成するための主発問を練った上で授業を実施するようにしている。 ・友達に話すことや書くことがしなくなる教材開発や活動のバリエーションを豊かにするようにしている。	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語においては、主語・述語及び修飾語・被修飾語の関係と漢字の使い方に課題がある。 算数においては、三位数÷一位数の計算、時刻の求め方、時速から分速を求めること、円グラフの読み取りに課題がある。 社会においては、八方位の理解、雨温図やグラフなどの資料の読み取りに課題がある。 理科においては、水の温まり方、ヘチマの部位の名称と役割、回路、堆積についての理解及び顕微鏡の操作に課題がある。
思考・判断・表現	国語においては、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめること話し手の意図を考え効果的な助言をすること、図表を用いて書き表し方を工夫すること、相手や目的に応じて文章を整えること、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること、中心となる語や文を捉えて文章を読むことに課題がある。 算数においては、水のかさを表すこと、商と余りを判断すること、比較量を求めること、グラフや複合グラフの読み取り、二次元表にまとめること、場面と図を関連付けられること、必要な数量を選び立式することに課題がある。 社会においては、特徴を考えることや別の立場から考えることに課題がある。 理科においては、断層の理解に課題がある。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	・単元の最初や途中で前学年や前単元の内容を復習する時間を設けた。 ・単元の後半に、習った学習内容を活かす時間や機会を設けた。 ・児童が自分の学習状況に合わせて「ドリルパーク」等を活用する時間や機会を設けることに課題がある。
思考・判断・表現	B	・学習活動や過程を明確に示し、個人で取り組む時間を確保して、見通しをもって学習できるようにした。 ・友達に話すことや書くことがしなくなる教材開発や活動のバリエーションを豊かにするようにした。 ・指示や発問を減らして、ねらいを達成するための主発問を練った上で授業を実施することに課題がある。

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	国語においては、主語・述語及び修飾語・被修飾語の関係を活かした書く活動と習った漢字を活用する時間の設定。 算数においては、計算練習や時刻の求め方、時速から分速を求める習熟の時間の確保、グラフの読み取り方を丁寧に指導する。 社会においては、地図帳の活用、雨温図やグラフなどの資料の読み取り方を丁寧に指導する。 理科においては、市調査で課題が明らかになった単元に重点をおいて指導する。
思考・判断・表現	国語においては、話す・聞く学習活動では、意見の違いに着目することや友達に助言する機会をつくる、書く学習活動では図表を用いて書き方を工夫することや文章を整える機会をつくる、読む活動では想像すること、中心となる語や文を捉えらえるようにする。 算数においては、市調査で明らかになった単元に重点をおいて指導するとともに、グラフの読み取りやまとめる時間を設定する。 社会においては、複数の資料や立場から考える時間を設定する。 理科においては、市調査で課題が明らかになった単元に重点をおいて指導する。

※評価

A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)